

# 源流の四季

第11(2003年10月) 秋



Autumn

発行所/多摩川源流研究所 〒409-0211 山梨県北都留郡小菅村4383  
TEL 0428(87)7055 FAX 0428(87)7057

発行責任者/中村文明  
協力/多摩川源流協議会(塩山市・奥多摩町・丹波山村・小菅村)  
多摩川源流観察会

印刷/(株)サンニチ印刷  
http://www.tamagawagenryu.net  
E-mail:genryu@mx.cosmo.ne.jp



清流・丹波山村泉水谷(撮影 中村文明)

## Contents 目次

- 「源流体験教室」特集.....2・3
- 秘境・妙見五段の滝を訪ねて.....4・5
- 第4回全国源流シンポジウム.....6
- 「多摩川源流プロジェクト委員会」.....6
- 第1回全国源流体験教室.....7
- 全国源流フォーラムのご案内.....8



# 日本の自然を誇れる子供たちを育てよう

日本の未来を担う子供たちに、自然を満喫させ、自然を誇れる子供たちを育てようという取り組みが、「源流体験教室」が共感の輪を広げている。6月の川崎市宮内中学校の源流体験教室を皮切りに、福生市、東都生協、川崎や狛江の水辺の楽校、稲城市、三鷹市、八王子市、世田谷区、小平市、大田区、京浜河川事務所など、今年度は、昨年以上に多摩川流域の各地から源流体験教室への参加が大きく広がっている。

## 共感の輪広げる「源流体験教室」

**自分のことは自分でやる  
自分の安全は自分で守る**

源流体験の目的は、①川や水の源の姿を知り自然を大切にすることを育てる、②自分の力を信じて、自分の判断と責任で源流を歩く、③好奇心と未知の世界へ挑戦する意欲を育てることにあるが、何よりも子供たちが、「自分のことは自分でやる」「自分の安全は自分で守る」よう指導しているが、こうした子供たちの自立と責任を追求する源流体験に理解と共感の輪が大きく広がっている。

**狛江水辺の楽校  
三年ぶりの願いが叶う**

狛江市の水辺の楽校が三年目にしてようやく「源流体験」の願いが叶い8月6日7日に小菅村にやってきた。というのも、一昨年、昨年とせつかくの源流体験が台風のため中止となったからだ。今回は、総勢51名で元気に小菅村に到着した。源流研究所周辺で昼食を食べた後、早速源流へ向かった。

源流体験記念写真（川崎市宮内中学校）



急流に挑む参加者

**安全確保を整えて  
安心感を与える**

低学年が多いので、どうサポートするか思案のしどころである。自分の力を信じて自分の責任で源流を歩かせる。どんな環境を整えれば、低学年でも進んで歩けるか。流れの速いところに多めのサポーターを配置し、安心感を与える。低学年は体力がないので最初の方で余りながく水に入れない。これしかない。とつきに判断して、大人のサポーター12名、中学三年生の赤坂君の3名をサポーターに依頼する。ただし、安全確保のスタッフには、子供たちが滑っても転んでも、手を出さないようお願いする。

**子供たちの澀刺とした姿に  
親たちも励まされる**

子供たちが困難に負けず小さな体を張って源流の流れに立ち向かう姿が、親たちにも伝わっていく。子供たちのはつらつとした姿に親たちが励まされるそんな雰囲気だった。

驚いたことに、釜淵では、低学年も含めて全員がヒヤヒヤドキドキコースに挑み、最後の滝淵では、多くの子供が源流の冷たく綺麗な淵に体を沈めていた。中には、ドボンと飛び込む子供も現れ、子供たちは、源流の夏を楽しみながら、川の源の姿や様子を体と心で存分に受けとめていた。

**ムササビの姿に歓声**

夜の御鷹神社のムササビ観察会では、かわいらしいムササビ君が木の穴のなかから顔を覗かせ、赤色灯の光に反射した瞳がきらきら光る様子子供たちは歓声を上げ喜んでいた。





源流は『自然の最たるもの』と実感！

源流体験で新しい発見と感動を経験した参加者たち。自然の持つ無限の美しさやエネルギーに触れた新鮮な心ときめきを感想文にこめていきます。参加者のアンケートを紹介いたします。

人生にとって大きな糧になる

危険度増すほど真剣に

「一年生のお母様のコメントです。」「二度も私の方を振り返らず、ずんずんと進んでいった。泳ぐときも、私に許可ももらわず自ら上着をぬいで川に飛び込んでいった。今までにない驚きです。」とのこと。

子供たちの目が、危険度が増すほど真剣になり、後ろ姿がたくましくなっていくのが、こんなにも感じられたのは私も初めての経験で、これからの子育ての仕方を考えさせられました。」



清流でニジマスのつかみどり体験

源流は「自然の最たるもの」

「意外とハードだった。教室が川の中だとは驚きました。得難い体験をさせていただき、感謝しております。自然がいっぱいあり、「これが自然だ」と肌で感じました。子どもに源流体験させることは、極めて大事なことでと思います。源流は「自然の最たるもの」であり、子ども頃に五感で味わわせる事は、その後の人生にとって大きな糧になると思います。」



自分の力で歩く

夢中で体験した(子ども)

「源流体験は予想以上でした。流れも速く、水も冷たいし大変でした。でもこんな体験は初めてだったので面白かった。最初に水に入った時、水がすごく冷たかったので、いやだな、早く終わりたいと思ったけどやってみると夢中でそんなことは考えませんでした。すごくいい体験をしたなと思いました。」

子供の力ってすごい

「子どもたちが思っていたより、自分の力でどんどん進んで行く姿を見て「すごい!!」と思いました。ふだんちよつとした小さな傷でも「痛い!」と言って保健室に来る子たちが、もくもくと歩いていく姿、最後何回も飛び込んだりと、一歩たくましくなったのだと思います。」「子供の力」ってすごいですね。」

思い出は一生残る

「若い頃、沢歩きを山歩きのついでに少しやっていたが、これほどワイルドにやるのにはおどろいた。特に、滝つぼに子供たちをとびこませたのはびっくりした。子供にとって、楽しい、忘れられない思い出として一生心に残ると思う。」

自然の雄大さ全身で感じ

「初めての体験、感動的でした。水の力、冷たさ、気持ちよさを感じ、自然の雄大さをひさびさに全身で感じる事が出来ました。水の流れの音のみの世界にひたる気持ちよさは格別でした。又、参加したいです!」

岩から岩へうつる(子ども)

「たのしかったです。とくとびこみや岩から岩へうつるロープなどいろいろとたのしかったです。はじめはこんなのできっこないなどとおもっていましたが、とちゅうから、おもしろいと思いました。ぜひまたいきたいと思えます。すごーくたのしかったです。」

大人の手を借りずに

「子ども達が大変楽しそうに体験できありがとうございました。大人の手を借りずに自分の力で進んでいくことにより自信にもなったと思います。また、企画したいと思えますのでその時は又宜しくお願いします。」

想像以上に楽しかった

「想像以上に楽しかったし、子どもにとってよい体験が出来たと思います。次回参加する事が出来たら、こんどは水着を用意してこようと思います。」



# 感激と感動、歓声が渓谷へこだまします

## 「秘境・妙見五段の滝探訪の旅」を実施



妙見五段の滝をバックに笑顔の記念写真（8月31日）

### 「源流ファンクラブ」会員を対象に取り組む

小菅村と源流研究所は、8月30～31日に「第一回妙見五段の滝探訪の旅」に取り組んだ。この滝は小菅川源流に位置しこれまで人々に知られることもなく豊かな自然に包まれた環境のなかで今も流れ続けている。当日は、「多摩川源流ファンクラブ」の会員23名が参加。参加者は「感動の一言につきまます」「本当に素

### 油断するとケガをし危険箇所が多いルート

31日の朝8時30分に旅館を出発して、マイクロバスで林道の終点を目指す。スタッフは、文明所長、佐藤室長、奥秋さん、横君、井村主任とフルメンバーで対応する。終点で、準備体操をして、源流ウォークの注意点を説明する。小菅川源流域の大きな特徴は、この渓谷が石と岩に覆われていて、滑りやすく油断するとケガをする危険箇所が多いこと。特に、登りよりも下りの方が危険が多いので下りに

関して注意喚起する。

9時15分に出発する。左岸の急な山道を登り、葵田を過ぎると右岸の大きな石をくぐり抜け、2度3度と、徒渉を繰り返しながら上り詰めていく。歩き始めて約1時間で、鳥小屋出合い滝とシオジの巨樹にお目に掛かる。シオジは、北向き方向には見事な苔を貯えているが、南向きの木肌はやや弱っている。このままずっと元気でいてくれと祈る。

### 歓声が谷間に響き渡る

途中何か所か崩落現場に出くわす。広葉樹林にも関わらず、傾斜のきつい砂岩泥岩の土壌のため、大雨には勝てないよう、大木が何本も谷を跨いでいた。無名滝が近づいてきた。いよいよ妙見五段の滝は近い。無名滝から数分で妙見五段の滝が姿を現してきた。参加者から、「すごい。妙見五段の滝に会えて本当に幸せ」と感動の声と歓声が上がると、

様々な交流事業に取り組んで来たが、今回の「妙見五段の滝探訪」の時ほど笑顔が印象に残った取り組みはないだろう。自然の悪条件の中でその困難を克服して、所期の目的を遂げる達成感、爽快感を参加者みんなが共有出来たこと、これが大きいのだと思う。行きが1時間45分、帰りが1時間20分という疲労感の残らない距離といい、そこそこの困難さといい、丁度よかったのだと思う。いずれにしろ、この妙見五段の滝は、源流に通い、源流に思いを寄せ、源流の神々から入山のお許しがおりました人々だけが会える秘境であって良いと思う。今でこそ、林道が開通し、1時間45分でこの滝に出会えるが、林道のない時は何時間の道のりであったことか。

### ツル細工・竹細工に夢中

そんなに気楽に誰でも見れるものではないのだ。こうしたスタンスを守り続けていきたい。

初日は、古家旅館で昼食を食べて自己紹介が始まる。それぞれが、これまで参加したイベントの感想と小菅村と源流研究所への思いを熱く語りあう。ある会員は、去年から今年にかけて10回近く小菅村を訪問しているなど、それぞれが平均して4回か5回小菅に足を運んでいた。楽しい食事のあとは、ゆうゆう倶楽部の指導によるツル細工、竹細工に参加者は挑戦する。時間に余裕があったせいでツルは全員が作品を完成させ、竹に関しては、高度な技術を要しただけに指導者の手を借りて作品を完成させていた。



妙見五段の滝に向けて歩く参加者



# 夢が叶い 想像通りの神秘さに圧倒

参加者の感動的な笑顔が目に見え、待ち望んでいたことが、実現できた喜びと神秘的な美しさへの感謝の気持ちが参加者から多く寄せられました。



目的地目指す参加者

## せせらぎの音は 何よりのごちそう

「感動の一言につきまします。もつと登りが大変かと覚悟をしていたのですが、私でも登ることが出来、達成感を味わうことが出来ました。水のせせらぎの音を聞きながら歩くのは何よりのごちそうです。これでしたら、ニコニコ笑顔で暮らせます。きめ細かいサポートがあったお陰で無事登ることが出来、感謝しています。この機会を設けていただいて感謝感謝。又参加します。」

## 無理かなと思っていたこと 実現できて本当に素晴らしい

「第一回目の源流探訪の旅にきたときに、文明所長からまだ名前が付いていない五段の滝の大パネルを見て以来、いつかは行ってみたい、でも無理かなと思っていました。それが実現できたなんて本当に素晴らしい。大感激。沢登りも初体験で少し不安でしたが、「妙見五段の滝」を見たらもう最高。きて良かった。所長、井村さん始めスタッフの皆さん有り難う。今また来年も妙見に行きたい気持ちになっています。」

## ただのレクリエーションツアー お断りして欲しい

「最高でした。この夏の唯一にして最大のイベントがこのツアーでした。想像以上に素晴らしいコースでした。昨年の源流体験教室より水が冷たくなかった。渡渉も童心に帰って楽しみました。こんなところまで、都会の素人が入り込んで良

いのかという気持ちもなくはなかったのですが、体験してみてもガイド次第かなという印象でした。源流研・地元の方々がガイドするケースに限ってOKにして、ただのレクリエーション流見ツアーはお断りしておいて欲しいなと思いました。」

## 夢が叶い想像通りの 神秘的な様に圧倒された

「写真やお話の中に出てくる秘境に実際に自分の足で行ってこの目で見られるとは夢にも思いませんでした。その夢が叶い、想像通りの神秘的な様に圧倒され、感激でした。しばらくは、妙見五段の滝が日常の中にフツと出てきそうです。まだ見も知らぬ小菅の自然に触れる企画をよろしく願います。」

## 神様が謙虚な心の人のみに 許してくださる滝

「美しい滝で簡単にいけない良さがあつた。源流の神様が謙虚な心を持つ人々にのみ許してくださる神祕の姿は、是非、日々の努力を重ねた上で訪ねたい。地元の方々の細かい気配りにいつも申し訳なく思っています。」

## 不安で一杯だったが 安心して登ることが出来た

「登る前は不安で一杯でしたが、きめ細かなサポートで安心して登ることが出来、感動いたしました。所長さんの思いのたけが共有できました。「妙見五段の滝」素晴らしいネーミングです。靴下アンド縄の威力に助けられました。有り難うございました。」

## 不安だらけでしたが 最高です

「所長の話をついたときからあこがれていました。それも3年ほど前だったと思います。膝をいためてほとんど山登りをしていませんでしたので、不安だらけでしたが最高です。ありがとうございました。もつと足を鍛えてもう一回行ってみたいです。スタッフの皆さん本当にありがとうございます。中村さんがずっと前を歩いてくださったお陰で行けたのです。感謝感謝です。」



# 全国源流シンポジウムを開催

## 高橋先生、「昔から続く流域の一体感」強調



あいさつする岩井國臣参議院議員（9月13日島根県匹見町）

論し、「わたしたちは、日本一安全な生命の水を次世代に残すことを約束します」との高津川源流宣言を確認して閉会した。

開会式では、アンダンテ21の篠原亮実行委員長が「源流の水や森は流域社会共通の財産である。美味しい水や鮎を子供たちに受け継ぎたい」と挨拶。わざわざ東京から駆けつけてくれた岩井國臣参議院議員は、「今日日本は大きな転機を迎えているが、基本的には大事なことは、先祖を敬うことであり、伝統文化を大事にすることである。源流には、神楽や祭りなど脈々と伝統が生きている。平和のこと、源流のことで何が出来るか大いに議論して欲しい」と参加者を激励した。

第4回全国源流シンポジウムが、9月13～14日に、島根県高津川源流の匹見町と六日市町で開催され、源流に関心のある市民や研究者、行政関係者などが全国各地から350名参加し、源流の魅力や可能性を熱心に議

基調講演に立った高橋裕先生は、「世界の源流、日本の源流」と題して世界各地の河川の様子や現状を紹介、数千キロの流域を持つ世界の河川では、源流と河口との結びつきは希薄であり、下流の市民の源流への関心は薄

いと指摘、「日本は流域という概念を自然と身につけることが出来る。川の大きさが適当といえる。」と、江戸時代の芭蕉の俳句、「五月雨をあつめて早し最上川」を引用しながら日本人がむかしから源流や流域に思いを深く寄せてきた文化や伝統に触れながら、流域の一体感が日本には昔からあったと強調。源流を流域全体で守ることの大切さを訴え、参加者に大きな感銘を与えた。

午後からは、源流域の魚、河川争奪、源流体験などの分科会に分かれて交流と連帯を深めあった。

## 源流域の資源は流域社会全体の財産

### 「源流プロジェクト委員会」で意見交換

塩山市、奥多摩町、丹波山村、小菅村で構成する多摩川源流協議会（会長三枝剛塩山市長）は、7月16日、小菅村役場で第2回「多摩川源流プロジェクト委員会」を、さらに9月4日に丹波山村役場で第3回をそれぞれ開催した。第3回プロジェクト委

員会では、これまでの現状報告や課題の提起、意見交換や提言を踏まえて諮問に対する中間答申案が提案された。プロジェクト委員会では、多摩川源流域の資源を流域が一体となって保全する重要性が強調されるなど、活発な意見交換が行われた。



あいさつする高橋委員長（7月16日）

山村や山林所有者だけでは山は守れない時代

中間答申案では、「森林地帯である源流域は、広大な山林を抱え、山村や山林所有者だけでは、森林を管理することは出来なくなってきた。今後、源流域の森林を守り育てて行くには、どんな視点と政策が求められているのだろうか。」と今後の森林整備のあり方に焦点が当てられている。

### 森林は共有財産であり社会的な仕組みの中で守る

答申案は、「森林は、木材生産をはじめ、水源の涵養、国土の保全、保健・教育、CO2の吸収・固定化、多くの生物への生息地の提供など多様な機能と役割を有しているが、この森林の存在は、国民が豊かな経済生活を営み、魅力ある社会を持続的に安定的に維持するうえでなくてはならない必要不可欠なもの」であると指摘し、「社会的に必要であるものは、社会的な仕組みの中で守り育てていく」というこの立場を国民的な合意まで高め、この原則にもとづく森林整備や管理のあり方を追求していくべきであると強調している。



# みずガキを全国で育てよう！

## 好評を博した全国源流体験教室

島根県・高津川源流で、「みずガキを各地で育てよう」と、全国水環境交流会と全国源流ネットワークが共同で、「全国源流体験教室」。「全国みずガキワークショップ」を開催した。当日、指導者として源流体験にかかわった3名に感想を寄せてもらった。



源流体験に山梨・川崎・大阪・岡山・広島・山口・島根など各地から130名が参加した（9月13日）

### 前匹見峡は源流体験の

#### 貴重なポイント

源流研究所運営委員 雨宮清貴

前匹見峡は源流体験に必要な要素がそろっている。淵や滑り、淵を泳ぎ切り、5mという高所から飛び込むこともできる。どれも自分への挑戦である。さらに、鬼の釜（斷穴）では自然の力と川の生命の深さを知ることにもなる。

川を知っている子どもは自分を知っている。挑戦する正しい勇気を持っている。これは岡山県旭川で活動する子どもから学んだこと。彼等は、水との一体感を味わう素晴らしさを知っているし、水の怖さも知っている。

私達が多摩川での源流体験で知り得たノウハウは他の源流にも対応できる。源流体験の目的とそれを可能とする安全確保などのサポート体制。

地元からも忘れられていた前匹見峡は源流部域において源流体験ができる貴重なポイントである。今後地元を期待することは、常時源流体験が可能となるシステムの構築である。

### どんどん水ガキ大将を

#### 増やしたい

源流研究所主任研究員 井村礼恵

3年前から多摩川流域の子どもや親を対象とした源流体験教室が、全国的に広がりつつあり、今回は高津川源流の匹見川での体験教室が実現したことを嬉しく思う。

試みとしてよかったと思うことは、川崎の宮内中学校の三年生3人が源流シンポジウムに出席し、源流体験ではサブリーダーとして大活躍してくれたことだ。彼らは普段の多摩川流域での活動や学びを、全国規模の大会の場で発揮してくれた。今後、どんどん「川ガキ」の大将を増やしていきたい。

また、受け入れ側からの視点でいうと、源流体験教室の継続実施は準備から片付けまで、とても大変な仕事だ。けれども、その実現の第一歩はまず大人が源流に惹かれ、子どもを連れて行きたいと思うことから始まるということ。匹見での開催までの過程をみて、改めて確認した。

### 可能性は

#### どの源流も秘めている

道志村・オム 杉岡哲也

今回の開催場所は前匹見峡の一部を使用した。そこは新しい道路（トンネル）が出来た為、普段匹見町の人もあまり通らず忘れかけていた場所だったと思う。

それは今まで知らなかった人は無論、地元の人にとっても新しい発見だったと思う。なぜなら、今まではただそこに昔からあるだけのものが、視点をかえると大きな学びの場として打って付けな場所だからである。

源流体験は子供にとっても大人にとっても、新しい自己や自然観を発見する機会を与えてくれ、滑りやすい岩の上を慎重に歩き、流れに逆らって上流を目指し、大きな淵では勇気を出して岩から飛び込む。この他にも情景の美しさ、悠久の時間の流れや自然の力、川岸ではなく「川の中から見る」という視点の切り替えなど様々な事が相乗効果を発揮する。

源流の清らかな水と豊かな自然は、未知のエネルギーを秘めていて、見方を変えるだけで新たな展望が開けることを教えており、そしてこの可能性はどの源流も秘めていると思う。



# 第1回全国源流フォーラムのご案内

主催:全国源流ネットワーク・小菅村 共催:国土交通省京浜河川事務所 協力:多摩川源流協議会

## 開催の趣旨

源流に魅せられた全国の仲間が昨年、全国源流ネットワークを結成して全国源流シンポジウムを各地で開催して源流の魅力をアピールしてきた。来年度の第5回全国源流シンポジウムは、東京開催が予定されている。

現在、源流域は過疎化と高齢化の荒波にさらされ、基礎的自治体としての存続さえ危ぶまれている。源流の自然、歴史、文化などの資源の持つ価値と魅力、その可能性を探求し源流域を再認識する機会を提供し、源流への理解者の輪を広げたい。農山村と都市との共存や源流社会共通の財産である森林や自然環境を流域社会全体で支えていく仕組みづくりが今世紀の重要な課題であり、その活路を模索するのがこのフォーラムの目的である。

## 全国源流フォーラムの内容

全国各地で活躍されているまちづくりや川、森に関する学識者や研究者をお招きして、人間の生き方を研究する立場から、あるいは町づくり人づくりの立場から、さらに森づくり川づくりの立場から、それぞれの源流への思いを縦横に語っていただき、源流域の将来への課題や展望をさぐり合いたい。そして、講師と参加者が自由に意見交換し、源流の今日と未来への希望を語り合い確認しあいたい。

【テーマ】「源流の役割や価値と可能性の探求」

【講師】 高橋 裕 東京大学名誉教授  
森 巖 夫 地域づくり団体全国協議会会長  
内山 節 自然哲学者  
恵 小百合 荒川流域ネットワーク代表  
海野 脩司 国土交通省京浜河川事務所長

【コーディネーター】 宮林 茂幸 東京農業大学森林政策学教授

【日時】 2003年12月13日(土)～14日(日) 午後1時30分開会

【参加費】 無料(13日午前11時35分にJR奥多摩駅に迎えバスあり。  
また14日、JR奥多摩駅まで送りバスあり)

【宿泊費】 8,000円(一泊三食・初日13日の昼食は各自で済ませて下さい)

【場所】 多摩川源流・山梨県小菅村役場

【申込先】 小菅村役場源流交流推進室 ☎0428-87-0111(佐藤英敏)

この事業はセブンイレブン みどりの基金の助成を受けています